

開催日時：平成24年8月30日（木） 14:00～16:00

開催場所：KKRホテル仙台 蔵王

（発言者） ●：委員

○：事務局

（1）名取川水系河川整備計画の変更について（資料-1，資料-2）

●維持管理の中に危機管理体制の整備・強化をまとめて頂いているが、可能であれば1点追加して頂きたい。防災教育の支援と、防災・水防活動への連携等と絡むが、やはり避難訓練とか防災訓練が非常に大切と思う。これが従来学校、また地域で個別に行われていたところもあると思うが、ぜひ連携して頂きたい。

また、観光地に行くと、例えば携帯を使って色んな画像情報が出てくるデジタルミュージアムというのがある。震災の経験の伝承ということに関連して、整備局では遡上の記録等の資料や写真とかをデジタルで残していると思うので、これを使ってソフト的なものも支援して頂けると、当時の経験の伝承に役に立つのではないかと思う。

●8ページの流水の適切な管理に関して、塩水の遡上範囲が上流に及んでいるという説明があったが、具体的に利水上の何か問題点というのが現在あるのか教えて欲しい。

○8ページの右下の平面図にある名取川頭首工、広瀬川については郡山堰と、その上流には愛宕堰という施設がある。名取川の農業用水等の水利用に関しては、この頭首工と堰から取水していることもあって、遡上に関して今現在直接農業等への影響という声は聞こえてはいない。

●4ページのところの左側の図面で、河川堤防が太くなっている区間と細く赤くなっている区間と2種類あるが、これは細いほうもT. P. +7.2m高の堤防になっているという考えか。そこがT. P. +7.2mで今回防潮堤とどうつながるのか教えて欲しい。

○4ページのほうの垂直写真の中に閑上大橋という橋の名前がある。この閑上大橋までがT. P. +7.2mと考えていて、そこから上流側の新名取川橋に向かっての1ランク細い線の区間がT. P. +6.0mと記載している。右側のポンチ絵にも記載しているように、閑上大橋までがT. P. +7.2mで、そこから先はT. P. +6.0mという高さで設定している。また、上側に向かっている井土浦に関しての細い線は、現状のこれまで整備してきた高さ、T. P. +4.4mで整備しており、河川堤防としてT. P. +4.4mの高さで概成している。

●12ページの垂直写真を見ると、藤塚または井土浦の砂州の部分が大きく変化しているというのがよく判る。干潟は、一朝一夕ででき上がったものではなく、長年の変化の中ででき上がったものであり、今の藤塚の部分につくる堤防がT. P. +4.4m、今度外側に点線で書いてあるT. P. +7.2mの堤防をつくる予定になっている。そうすると、井土浦の変化は、これ以上望めなくなる

可能性があり、現状維持のままで終わるように考える。それで、藤塚のT. P. +4.4mの部分で7.2mの高さにして、海岸沿いまで赤線の部分の細いところをT. P. +7.2mにして、海岸堤防とつなぐような形に変更できないか。

○青の点々で囲っている海岸堤防に関して、震災前の深沼海岸にはコンクリートの堤防等がもともとあった。また井土浦の砂丘の部分についても砂丘堤になっており、その中で井土浦があったのが震災前の状況である。今回海岸堤防等がほぼ全域にわたって被災を受けたという点を踏まえて、まず防御の第一線堤として海岸堤防を整備していくことを基本に、仙台市の震災復興計画等ということでもあるので、ここの堤防を無くすことは、今の時点では考えにくいと思っている。

●今の説明では復興計画にこの第一堤防がないといけないということだが、今つくられているT. P. +4.4mの井土浦の内陸側にできている堤防をかさ上げすることで代替して同じ役目を果たす様にできないか。また、塩釜互理線、県道をかさ上げするという話があり、この井土浦の内陸側のと2つで一応二重堤防になる。そういう意味では、ある程度減災のことが考えられるのではないかと思う。

○海岸堤防については、沖合から来る津波等に対する一線堤の役目がある。井土浦はかなり湾曲した、曲がった堤防をしているが、今回の震災の被害調査の中では、こういった曲がりの部分が大きな被害を受けている。このままの法線を上げるだけでは十分な機能を発揮できないだろうと考えている。もしこれを一線堤にするのであれば、海岸堤防と同様、ある程度直線か、なめらかな法線にしないと津波の外力がどこかに集中してしまうことが懸念される。

それから、海岸堤防の位置については、ご承知のとおり大きく砂が改変しているため、一定期間モニタリングをして、砂の回復状況を見て堤防の位置を検討しようと考えている。当然、井土浦への影響と、名取川の河口砂州の維持を考慮して、このエリアを2年、もしくは3年ぐらい砂の移動について十分モニタリングした上で、改めて海岸堤防の法線計画を行うこととしている。よって、現時点では今の法線のままこれを一線堤とするのは好ましくないということと、海岸堤防については現在検討中だということをお伝えする。

●2年後ぐらいまでにモニタリングして、その上で結論を出すということについて理解した。

それから、先ほどのコーナーがあちこちにあることの問題については、井土浦のヒヌマイトトンボとか、藤塚の住宅に配慮して法線を決めたので、今はほとんど居住地として認められない状況になったとすれば、曲線の部分を直線にすることも考えて良いと思う。海岸堤防の法線が変われば貞山堀の周辺の干潟、井土浦の再生が可能になるのではないかなと思う。河口の砂州のでき方によっては干潟の部分がまるっきり水が止まってしまう可能性も出てくる。当時の計画と、状況が一変してしまったので、干潟を残すような方法を提案している。仮に、2年後でも3年後でも海岸堤防で止めてしまうと、その海岸線については恐らく固定されるだろうと思う。ところが、12ページの垂直写真を見ると、1年半だけでもこれだけの変化がある。つまりこれから予測できないような変化が出てくるかどうかをモニタリングして、堤防位置を決める際に十分考慮して欲しい。

○1年半でも大分大きな変化をしているので、これが落ちつく方向に行くのか、まだ変化が止まらないかということ、今後もモニタリングしていく予定でいる。ただし、今次津波を受けての一線堤というものは、当然地域の復興に寄与する施設であるので、今、国で示している概ね5年の中で堤防を完成させるという目標で整備していきたい。ただ、堤防の位置等についてはモニタリングを踏まえながら今後検討していきたい。

●今日の午前中、名取川のほうの河口域、ヤマトシジミの調査をしてきた。現場の2箇所小さいシジミを1カ月前に入れていたらすごく成長しており、考えている以上にすごく干潟の生産力が大きいのだと再認識している。井土浦あたりも非常にいろんな魚類がいるし、水の中の生物はかなり回復してきている事が実態から見て感じている。議論になっているように、行くたびに河口域の地形や塩水の入り方がすごく変わっているという、変化の途上という感じがしている。やはり少しモニタリングをきちんとしていくことが非常に重要だと思う。

また、干潟とか砂浜域というのが非常に生態系にとっては大事なところで、生物や私たち人間の生活にとっても、砂浜の砂の中での栄養塩の浄化とか、有機物の浄化というのが非常に大事だということも判っているので、ぜひ砂浜、干潟、この河口汽水域の扱いというのは考えて頂きたい。今回津波があって防災を非常に大事にしなければいけない、自然の脅威というのはあるけれど、自然の仕組みの上で私たちは生命活動が維持できているということを見ると、自然との共生という視点をどう考えるかをぜひこの計画の中に入れて頂くことを希望する。

●私自身は特に地形の回復とかの観点でこの現場を見ているが、やはりまだまだ変化する途上だと実感している。環境への影響とかも含めてモニタリングを非常に重要なものとして位置づけるということが前回の懇談会の意見に対する対応で、そこを強調していると理解している。

○井土浦の環境は非常に貴重な環境で、かつ今大きく変わりつつあるということは十分認識している。それを踏まえて2年ぐらいモニタリングした後でどうするかを考えていくとしているので、具体的に堤防法線をどうするかも含めて、その段階で考えさせて頂きたい。

●前回の意見に対する対応について、御礼を申し上げたいと思う。我々農業側では、今回の震災でかなり塩害を受け、対策の必要な面積が宮城県内で約1万3,000haぐらいあった。この除塩対策をするときに最も有効な方法は、水を入れてそれを下流に流すという方法だったが、この名取川水系の広瀬川の愛宕堰の場合には、非かんがい期に農業用水で利用できる水利権がないにもかかわらず柔軟に対応して頂いて除塩対策が進めてくれた。おかげさまで、この5月の時点で地域も50%ぐらい作付ができるまでに除塩対策が進められた。

今後まだ約50%除塩対策を必要とする面積が残っているし、下流側では地盤沈下の影響で、一旦除塩してもまた地下水のほうから塩分遡上してくる可能性もあるので、その辺についても今回の整備計画でモニタリングしながら今後その影響を見ていくと、さらには関係機関と協議して、対応を考えていくということ盛り込んで頂いたことについて御礼を申し上げたい。

(2) パブリックコメントについて (資料-3)

●未定稿の資料の左下にある洪水、高潮、津波に対応した河口部の整備と箇所、この写真を見ると、先ほど話していたのと同じ図面となっており、T. P. +7.2mの高さで実施する格好になっているが、このまま提示する予定か。

○誤解を招くため、リーフレットの写真表記について修正する。

●図面の写真の修正ということに限らず、先ほどから話題としている井土浦のことについて含めた整理をして欲しい。

○リーフレットについて、あわせて修正して各委員に送付させて頂く。

●名取川のこれからの川づくりについて、というタイトルになっているが、中身は基本的には河口部が対象である。特に今回の津波とか、高潮とかなので、タイトルにはそれをきちんと出して、名取川の河口域についての整備計画についてご意見をお聞かせくださいという方が中身と合うし、一般の市民の人たちにへも伝わるのではないか。

○ご指摘を踏まえてリーフレットのタイトル等の表記について、修正させて頂く。

以上